

性に関する指導

趣旨

豊かな人間性をはぐくみ、生涯を通じて健康な生活を営むために、生命尊重、人間尊重等を基盤とした性に関する指導の、発育・発達の段階に即した学習や指導のあり方、進め方について協議する。

協議題

- 1 発育・発達の段階に応じた性に関する指導の進め方について
- 2 教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図った性に関する指導の指導計画の作成と実施及び改善について
- 3 学校・家庭・地域が連携した性に関する指導の進め方について

第 4 分科会

発 表 主 題	発 表 者	
	所属名及び職名	氏 名
命をみつめ自分も相手も大切に生きる子供の育成 ～学校・家庭・地域と連携した 「命の授業」を通して～	沖縄県石垣市立登野城小学校 養護教諭	友 利 良 子
学校・家庭・地域が連携した 「性に関する指導」の推進 ～保護者・地域の「性に関する指導」への 関心を高める学校の取組～	福岡県小郡市立小郡中学校 教諭	大 石 裕 二
小中高等学校における性教育 ～宮崎県での取り組み～	宮崎大学医学部附属病院 産婦人科病院教授（講師） 遺伝カウンセリング部部長兼任	山 口 昌 俊

役 員	所属名及び職名	氏 名
指 導 助 言 者	沖縄県那覇市立壺屋小学校 前校長	下 地 京 子
司 会 者	宮崎県都城市立笛水中学校 教 頭	加 藤 正 嗣

質疑応答及び研究協議

1 質疑応答

[質問1] 友利先生の発表について

家族からの手紙を実施するにあたって、保護者へお願いしたこと、留意点があれば教えてください。

(鹿児島県 下川平小 濱田)



【回答】

家族からの手紙については、担任の強い思いがあった。祖父母に育てられた子どももいるため、祖父母でも周りの家族でも書けるよう配慮した。生まれた時のこと、子どもの成長の喜びについて書いてくださいと依頼した。

(発表者 友利)

[質問2] 大石先生の発表について

地域・家庭と連携した取組以外で、学級担任が行う学級活動を活用しての性に関する指導をどのようにされているかお聞きしたい。

(宮崎県 東海中 猪俣)



【回答】

1年生では、心身の発達についての勉強を保健体育等で行っていくが、学級担任についてはそ

れぞれの経験から思うところについて触れるということぐらいしかできていない状況である。まだ不十分だと思う。

(発表者 大石)

[質問3]

民生委員との話合いでよい成果があれば聞かせて欲しい。

(長崎県 第一中 馬場)

【回答】

地域のそれぞれの民生員の方たちに、その地域に住む生徒の問題傾向や保護者と協力していただきたいことを具体的に話をしている。そうすることで逆に民生員の方から、その生徒の現在の状況について聞かれたりする。場合によっては、地域で民生員から話をしてみますと言われることもあり、少しずつ前進しているのではないかと思う。

(発表者 大石)

[質問4] 山口先生の発表について

日本はSEXのことをタブー視するところがあるが、PTAとして性に関する問題をどういう形で発信していったらよいか。うまく表現できる方法があったら教えて欲しい。

(宮崎県 赤江小 椋木)



【回答】

日本人はなかなかそういうことを言い辛い。だから、僕が日頃から学生に言っていることは、異性を好きになることは異常なことではないということと、困った時に相談できる関係を築いておくことが大切だと伝えている。

宮崎県産婦人科医会が行っている性に関する相談窓口では、匿名で相談できるシステムがあるので知っておくとよい。相談窓口があることを紹介することで解決方法につながるかもしれない。

(発表者 山口)

[質問5]

小中学校と高校では話の内容を変えているということであったが、高校での話の内容について少し教えていただきたい。

(宮崎県 宮崎西中 永田)

【回答】

高校で話をする時は、建前で言ってもしょうがない。だから、性教育では一番望まない妊娠を避ける、そのための方法を教えている。しかし、教職員へ正しいコンドームの付け方についての質問をして、反応が怪しい時にはそこまで言えない状況がある。そういう場合は、家族計画協会が作っているサイトで例えば、正しいコンドームの付け方等が書いてあるので見てみませんかと紹介している。SEXするとなった時、女性は拒否したり断ったりしにくいので、男性諸君にポイントを置くようにしている。本当に彼女が好きだったら、彼女が困ったり嫌な思いをしたりしないために、自分に何ができるか考えて欲しいということを必ず強調している。そのためにこういうサイトがあるから見てごらんと話をしている。

小中学校では、本当に両親から祝福されて生まれてきた子どもであること、君たちも次の子孫をそのように迎えて欲しいと話をしている。

最後に、WHOのプログラムをテイクホームメッセージとしている。

「このプログラムを受けてから、自分の彼女のことを考えるようになりました。それまでは、自分のことしか考えてませんでした。」と、ブラジルの少年が言った言葉を伝えている。

自分の場合、性教育は人間としての教育という立場で行っている。

(発表者 山口)

2 研究協議

[質問1]

第4分科会では3つの柱について話し合いを進

めていきたい。参加された先生方の学校で工夫されていることがあれば、せっかく九州各県から見えているので共有して帰ってもらえればと思う。各学校の取組や各県・地域でのこんな連携がありますよとか、こんな指導をしているというのがあれば紹介してください。

(司会者 加藤)



【意見】

佐賀県では20数年前から性教育外部講師招へい事業というのがあり、県の方で事業を進めている。以前は何年かおきに選ばれた学校が実施していたが、現在は毎年全ての県立学校において実施している。小中学校ではあまり取組がない。以前は県内外の性教育に携わっている講師を学校が選定して、県の予算で実施していたが、現在は学校医が医師会で作られた教材等を用いて、地域の産婦人科の先生と一緒に取組を実施している。産婦人科の先生に来ていただけるので相談しやすくなり連携がとりやすくなった。校医以外でも各大学の先生や地域を問わず取り組んでいる方を呼ぶことは可能である。男子生徒においては、「女性を大切にしなければならぬ」という気持ちを強く持った」とか、「自分の性衝動をしっかりと制御しなければならない。」という感想をほとんどの生徒が書いていた。反応がないような学校でも感想文を書かせるとしっかりと自分のことを考えていて大変よい取組だと思う。

(佐賀県 杵島高 森田)

[質問2]

産婦人科医に相談しやすいという環境が各県整っているか。産婦人科医として心配しているが、連絡を取りたい時にすぐに対応してくれないとか、話し辛いということはないか。佐賀県

はうまくいているが、その他の県はどうか。宮崎県も手上げ方式でやっているが、今問題になっているのが、私立高校はどうするのか、難しい点はあると思う。

(発表者 山口)

【回答】

福岡県については、性と心の健康相談事業を行っている、小中学校の実態は把握していないが、高等学校においてはかなりの学校で産婦人科の先生を呼んで講演会等を実施しているという報告を受けている。小中学校においても実施されていると思う。特に呼び辛いということは福岡県においては無い。

(福岡県 教育委員会 伊藤)

【回答】

中学校、小郡市では2002年～2004年まで文科省のエイズ教育の地域指定を受けてやった。その時に中心になってやったのが産婦人科の先生である。市教委を含めて全部でやった。せっかく組織的に作ったのにもったいないということで、2005年に小郡思春期懇話会というのを発足してほぼ10年経った。活動としては、市内の小中学生の性教育を進めていこうということで、性に関する指導だけではなく、年1回個々の会の研修会がっている。内容的には、性同一性障害やDV等様々な問題について毎回講師を呼んで、テーマを設定している。

小郡中では20年度から、早いところでは18年度から先ほどの先生を招いて中3の生徒への性教育講座という形で広げていっている。保護者も家ではなかなか話ができないということで、PTA講演会とかこの講座に入ってもらおうとか、今年はできれば地区長さんや民生児童委員さんにも広げていきたいと現在計画である。

(福岡県 小郡中 棚町)

[質問3]

産婦人科等との連携を各地でされているということだが、なかなか産婦人科と連携をとっても敷居が高い、難しいというイメージを持っているかもしれない。その辺は山口先生に気軽に相談してもよいということですか。

(司会 加藤)



【回答】

ぜひそうしていただきたいと思う。各県同じようにやっているはずである。問題は行政がどこまで動いてくれるかということはあるかもしれない。公立は県の方でやるが私立の学校がどうなるかといったら、県の取組の中に入っていないのでこのままでいいのかなというのもある。家庭の父親母親をどう取り込んでいけるか。実際問題、講演に行っても保護者の方も参加くださっているがごく一部である。家庭の事情もあるので無理かもしれないが、お互いにツーカーで相談できるようなシステムが本当にできたらいいなと思っている。質問していただいたように、家庭の中での性教育は敷居が高い。学校で話をしようとした時に、保護者が集まるかというところでもない気がする。難しい、僕でも分からない。

(発表者 山口)

指導助言

沖縄県那覇市立壺屋小学校
前校長 下地京子

学校における性に関する指導のねらいは、児童生徒の発達段階に応じて、性に関する科学的知識を理解すると共に、これに基づいた行動がとれるようにすることであり、各教科と特別活動、道徳などを中心に、学校教育活動全体を通じて指導することとされている。



友利先生の発表は、「学校・家庭・地域と連携した『命の授業』を通じた取組」、非常に良かったと思う。中でも学童期に児童の発達に即した指導をしたいと考え、子どもの実態を全職員で共有したこと、指導計画を作成しそれに基づいて実践し体系化し、保護者を巻き込み、地域や専門家の先生と連携したことが素晴らしい。保護者からのメッセージを伝えることで、子どもも大変喜んだと思う。そしてその姿を見ることで、保護者も喜び、お互いの人間関係も良好となり、保護者の自己肯定感も高まったのではないかと。学校の授業では、助産院での疑似体験や妊娠9か月の学級担任の先生の出番もあり、胎内の様子を想像したり、メッセージを受け取りながら自分と重ね合わせることで、命を見つめる機会になったと思う。

養護教諭のコーディネート力と専門性が発揮され、学校・家庭・地域・関係機関が見事に連携し、性に関する指導の充実が図られた取組であることがわかる。とりわけ各教科、道徳、特活、総合的な学習の時間と関連した指導は模範的でもある。今後、担当が変わろうとも、継続実施できる学校の組織体制であることを願う。この取組の中でもう少し工夫することがあるとすれば、思いを伝えるだけでなく、子どもたちに主体性を持たせる活

動、子どもたちが発信しシェアする活動を入れていくと、さらに効果が高まるのではないかと。友利先生の熱意が伝わる素晴らしい実践であった。

大石先生の発表は、「学校・家庭・地域が連携した『性に関する指導』を推進する学校の取組」で、学校の教育目標の具現化という視点から入っているところが良い。学校は組織的に教育を進める場であり、性に関する指導においても、管理職をはじめ教職員が連携して保護者・関係者と共に、その目標達成に向けて、意図的・計画的に実践する立場にある。心身の発育・発達や感染症の予防等の健康管理に関する内容は、体育や保健体育科で扱い、人間関係の育成に必要な内容や家族、または、社会の一員として必要な内容は、道徳や学活・総合的な学習の時間に位置付けることとされている。性に関する指導は、学校だけで行う性格のものでないことは、特性上言を待たない。学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を果たすことが重要であるが、学校が推進する側としてのリーダーシップをとり、目指す子供の未来像を関係者間で共有し、情報交換・役割分担しながら進めていくことが求められる。先生の学校では、外部からの協力者として地域の産婦人科医の講話も行われており、学校を支え、共に子どもの健全育成を図っていく環境が作られていることに関して、意図的・計画的な取組の素晴らしさを感じる。今後子どもたちの実情の背景をもとに、「今、大人がなすべきことが何か」、「今、子どもたちに必要なことは何か」を検討することで、連携内容を明確にすることが選択肢の一つになるのではないかと。大石先生の努力が感じられる実践発表で、大いに学ばせていただいた。

山口先生には、医師の立場から「小中高等学校における性教育」について、宮崎県での取組を発表していただいた。産婦人科医として、関係者として地域医療に積極的に取り組まれていることに敬意を表したい。先生はあえて狭義の「性教育」という表現で取り上げておられる。性教育は、学校で行う「性に関する指導」に包括されてくる。性教育とした理由に、データを解析したことで見

えてきた内容が直接、性に関する事柄の比重が大きかったと解している。立場上より専門的・科学的・医学的な内容を必要とすることから、養護教諭だけでなく、専門家の立場からもしっかり教え、課題解決につなげたいというお考えが伝わる内容である。

学校での外部講師の活用にあたっては、基本的には教職員が教えられない内容、専門的な内容であること、専門家の方が効果的だと思われる内容に関して行うものであり、事前の講師依頼の際に、目標・目的や子どもたちの実態をしっかりと伝えておくことが大切である。情報提供をしておくことで効果的に進められるからである。学校現場からも、積極的ニーズが欲しい。性に関する指導については、子どもたちが考える場面を設定し、その後専門家の先生に現状とその対応について話してもらうこと、そのような場面を持つことが、効果を倍増させると言われており、生徒たちの印象にも残りやすい。子どもに問い、考えさせ、正解を与えるというような形である。一方通行の授業ではなく、生徒自身が考えて気づく授業で、子どもたちの発達段階に応じた指導内容であることが付加されている。注意すべきは、指導要領の中で取り扱う内容については、その年齢の子どもたちであれば一様に知っておくべき内容と解し、指導すべきということである。子どもの実態は、実際には所謂‘寝ている子・起きた子’と様々だが、発達段階からみると非常に幼い子どもに対しても、最低限知っていて欲しいことは集団指導で教える必要がある。幼いからといって、内容を躊躇しすぎて必要な子どもに指導内容が行き届かないことがあってはならない。集団指導で行うことと、個々の児童が抱える問題に対する個別指導があるが、どちらもその内容に関しては慎重に取り扱っていただきたい。本当に必要な内容かどうかを見極めることが大切であり、必要でない内容については教える必要はない。個々によってもその内容は異なってくる。いずれにせよ、先生方は、子どもをしっかり見ておくことが重要なポイントだと言えるであろう。

宮崎県の医師会の取組は、地域医療の一環として模範的であり、今後ともお力添えをいただきたいところである。また、先生のような方を増やしていただくとありがたい。現場にいる者が気軽に相談にできるよう、アピールもお願いしたい。

今回の発表は山口先生の切実な思いが伝わる発表であり、感動した。出産直後の虐待死の件については、表には出てこないが多数の例があるということも衝撃であった。本日会場にいる私たちが心に置きながら子どもたちの指導にあたっていければと思う。

3名の先生方には、学ぶことの多い発表であった。

性に関する指導は、学校教育の一環として、幼児・児童・生徒の人格の完成、豊かな人間性を目的として行われるものである。国民の性に関する意識や価値観が多様化し、少子化や情報化等、子どもを取り巻く家庭環境や社会環境も大きく変化した。文部科学省は、学校においては全ての子どもに対して、人間尊重・男女平等の精神の徹底を図ると共に、人間の性に関する基礎的基本的事項を正しく理解させ、同性または異性との人間関係や、現在及び将来において直面するであろう性に関する諸問題について、適切な意思決定や行動選択ができるよう、指導を充実することに力を注いで欲しいとしている。



全ての学校において性に関する指導を効果的に進めるためには、教職員の共通理解のもとに、家庭や地域との連携を図りながら、まずは各学校の年間計画に位置付けること、組織的かつ計画的に行うことが重要である。なお、話し合いを行うにあたって、どこに基準を置くのかということも大切である。子どもを基準に持っていないと、解決策はみつからない。もっと子どもたちに必要な情報の提供を・・・というところを私からの発信とし、指導助言を終わらせていただく。